



—なぜ理学療法士を目指されたのですか？

「日本で進路についていろいろと考えていた時期に、脳梗塞で祖母が倒れました。その時に初めて祖母をサポートする理学療法士の仕事を見て、この仕事はすごく人の人生に携わる仕事だと感じました。将来、自分が理学療法士として祖母を支えていけたらいいな、と思ったのがきっかけです」

—仕事のやりがいは、どういったところですか？

「健康は人間の基礎になっています。そして患者さんは、自分の健康の足りないところを求めてやってきます。それを理学療法士が治せれば、患者さんにとっては幸せなことですし、それはすごくやりがいがあることだと思います」

—なぜパースへ？

「以前、友達と行った海外旅行先で初めて英語環境に触れ、英語で話すのって楽しいな、と思いました。その時は、全

海外で学んだことを日本に還元

然喋れませんでした。自分が好きでやっている理学療法士の仕事で英語を使い、海外でやりたい、と思うようになりました。理学療法はオーストラリアとアメリカで歴史が古く、特にオーストラリアなら学校に通う期間が短く、日本で取得した国家資格とその経験も考慮されるので、比較的早く現地で働けるということを聞きました。それに、パースのカーティン工科大学が、理学療法の中でも自分にとって興味がある分野で特に知られていたため、学ぶにはすごくいい環境だと思い、パースで学ぶことを選びました」

—現在の『志』はどのようなものですか？

「パースに来て、理学療法士としての仕事の幅が凄く広いことを知りました。オーストラリアで理学療法士になった後は、神経筋疾患や脳梗塞、パーキンソン病とか整形外科系の患者さんに関わりたいです。卒業後はしばらくオーストラリアで働きたいですが、ニューヨークやハワイなど日本人の理学療法士の需要がたくさんある場所にも興味があります。これからもっと現場での経験を積み、将来的には、自分が学んできたものを日本の教育機関や講習会で伝えたりして、日本に還元していきたいです」

エド ひであき  
江戸 英明さん (27)

日本で理学療法士として働き、更なる知識と技術の向上のため渡豪。現在、オーストラリアでの理学療法士の資格取得のためパースの大学に通う。



14TH ANNIVERSARY パースエクスプレス創刊14周年記念号 パースへの初志

—ラウンド（オーストラリア大陸を旅で一周すること）の良さは何ですか？

「今までツアーに参加せず、時間に縛られないで、自分のペースでラウンドしてきました。一番の良さは、その土地土地での人との出会いだと思います」

—オーストラリアの魅力は？

「シドニーでスタートして、オーストラリアの東海岸を車で南下しながら旅をしました。その後、タスマニアに渡り、アデレードを経由して、パースに到着しました。オーストラリアの魅力は、なんと言っても自然だと思います。壮大な、剥き出しの自然を目の当たりにするたびに感動しています」

—日本では何をされてきましたか？

「9年間ほど、東京の飲食店で店長として働いていました。渡豪当初は、シドニーの飲食店で働いていました。日本に戻ったら、知り合いと一緒にレストランをオープンする予定です」

—日豪で働くことの違いは？

「お客さんの反応が全然違います。オーストラリアだと、お客さんが良いと思ったものは良いと言うし、悪いものに対してははっきりと悪いと言います。日本だと、サー

常に前向きな姿勢で

ビスされて当たり前というような感じがありますが、オーストラリアでは、言葉や態度だったり、何かリアクションが返ってくるので、働いていてやりがいを感じます。そういう部分で、オーストラリアと日本の違いを感じます」

—今のご自身の『志』は？

「前向きなことを思い続ける、言い続ける、それを常に心掛けています。ネガティブなことは、絶対に考えない。何事にも本気で取り組む、ということも意識しています。例えばトラブルにぶつかっても、そこでネガティブにとらえず、前向きに考える。ピンチはチャンス、いつもそういうことを心掛けています。オーストラリアでの飲食店での経験を、帰国後に日本で始めるレストランの経営に活かせればと思っています」

まつだ たかひろ  
松田 崇広さん (31)

オーストラリアを一周しようとしてワーキングホリデービザで渡豪。長年、飲食に関わる仕事に従事し、帰国後は日本でレストランをオープンさせる予定。

